

第4回みんなの防災フェアが 開催されました

第六地区

今季最も寒い日となった2月9日(日)、こすもす会館で第4回みんなの防災フェアが開催され、地域の方が30名(内、子ども6名)参加しました。



午前中は、スタンドパイプ放水大会、初期消火コンテスト、AED・心肺蘇生コンテストが行われました。消防署員からスタンドパイプの操作方法について指導を受けた後、スタンドパイプの放水で的(ま)を倒す個人競技です。男女子供を問わず足を踏ん張り筒先とホースの連結部を腰に当てて放水する姿に拍手が起こり、最初は緊張していた顔も、的を倒すと皆さん満足そうな顔に変わっていました。

家庭用消火器(訓練用の水消火器を使用)を使った初期消火コンテストは、「火事だ!」を叫び消火器を火元近くに持っていき安全ピンを抜き、ホースの先端を持って火元に向け、レバーを握り、火元に見立てた的に消火剤(実際には水)を散布する一連の動作を採点する個人競技です。採点基準すべてクリアすると合格となります。皆さん寒さも忘れて真剣に取り組んでいました。慌てず、落ち着いて行動している人は合格していました。

室内では、4つのチームに分かれAED・心肺蘇生コンテスト(チーム対抗戦)が行われました。消防署員が採点します。人集めの呼びかけ、現場の安全確認、119番通報の依頼、AEDの手配、心臓マッサージ(胸骨圧迫)の正確さ、リレーによる継続、AEDの操作などが採点対象です。各チーム10分以上の試技です。心臓マッサージは1分ほど行うと息が上がってしまうほどの作業です。リレーで繋げていく大切さを、身をもって体験したようです。2分ごとにくるAEDからの音声指示に対応しながら、ひたすら、心臓マッサージを交替で行っていました。

ランチを挟んで、午後は「火事だ!」を叫ぶ大声大会とビンゴゲームで盛り上がりました。みんなの防災フェアは子供から大人まで誰もが楽しみながら防災の基礎を学べるフェアとして回を重ねています。参加者一人一人が時間をかけて訓練に励む様子に消防署員から「これほど、しっかり訓練されているところは珍しい」とお褒めの言葉をいただきました。

防災交流会・講習会を 開催いたしました

第四地区

2月16日(日)さくらんぼホールにて地域活性化事業と地区自主防災隊独自事業を連携させた「防災交流会・防災講習会」を開催しました。

防災交流会には38名が参加。地区長からの開会挨拶、自主防災隊活動報告に続き、会場から「震災時の家具転倒防止対策」「一時集合場所と避難経路」「AEDの設置場所」「避難所とペット」等について意見が出され、防災課題の共有が図られました。防災講習会には43名が参加。町田消防署から講師を招きAEDと消火器の操作実習と質疑を行い、震災時の家具転倒の危険性を周知するDVD「その時家具が凶器になる」を視聴、最後に消防からの講評を受けました。



回収したアンケートでは、交流会・講習会ともに「良かった」の声が大多数であり、成功裏に閉会となりました。このアンケートにも多数の意見が寄せられており、昨年第四地区が独自に実施した防災意識調査の結果と併せて2020年度の取組みに活かしていくことにしています。

資源回収の報告 2月重量は84.5トンでした

環境部

資源物は 収集当日の朝8時半までに出してください
※古紙・ダンボールは必ず紙ひもで括ってください

資源物のお問い合わせは

町内会事務所または 大興資源へ

☎045-929-4813

資源物の不正な抜き取りを目撃した時は

日時、場所、回収車の車両番号などを町内会まで

☎725-0438

あのとき役立った私の知恵【No.6】

防犯防災部

東日本大震災では、被災地の多くの自治体が壊滅的な被害を受け、避難所には自治体の職員はおらず避難者自らが手探りで運営にあたりました。

そのような避難生活をいくらかでも改善しようとして生まれた「あのとき役立った私の知恵」を前回に続き掲載します。

避難訓練の大切さを実感! 訓練で見かけなかった方が亡くなっている

「てんでんこ」の教えは自分で判断し行動すること命は自分で守ることの大切さを教えていた

新聞紙は座布団にもなる寒いときは体にかけてたり風呂敷代わりになる

83歳になる祖母が一人で避難し無事だったいつも避難訓練に参加していたおかげだと思ふ

地域レベルで井戸を確認し小型発電機とガソリンを備蓄しておくことが大事停電と断水は必ず起こる

日常飲んでいる薬の説明書は必ず身につけておくといい薬をもらうときに必要になる

母から聞いた三陸津波の話をもっと人に話していかなくてはこれから子や孫に伝えていく

当初6メートルの津波警報が出たが15メートルまで到達慢心することなくより高い所に避難すべき

赤ちゃんを抱いていた人はあつという間に引き離されたおんぶひもがあればと思った

「あのとき役立った私の知恵」は東京臨海広域防災公園・そなエリア東京に掲載されています。町内会のホームページと町内会だよりに掲載することを許可して下さった東京臨海広域防災公園・そなエリア東京に感謝いたします。

おさんぽ コラム

その実のかたちが、三味線をぺんぺん
と鳴らす撥(ばち)に似ているので、そのよ
うな別名がつけました。しかし私にはその実
がハートに見えます。春風に吹かれてゆらゆ
らと揺れるたくさんのハートを見てみると優
しい気持ちになります。
冬の間、ぺんぺん草の葉っぱは土の上で放
射状にぺたんこになって過ぎします。なるべ
く多く太陽を浴び、栄養をどんどん根にた
めためです。そして暖かくなると根にた
その栄養を使って、新しい茎は放射状の中央

ぺんぺん草

から伸びてきます。次世代を思うハート
にあふれたこの営みに、私は感動をおぼ
えます。
道ばたや広場などこの町のあちらこちら
にもぺんぺん草は見られます。ぜひ探
してみてください。

文・画 村山尚子

